

果実被害増加中!!

夜蛾の生態と対策

佐賀県果樹試験場病害虫研究担当係長 口木文孝



近年、夜蛾（果実吸蛾類）による果実被害が、ナシやモモだけではなくカンキツでも増加していますので、ここではその生態と対策について説明します。

主要な夜蛾類とその生態

果実を加害する夜蛾類は一〇〇種以上が記録されています。このうち、佐賀県で特に発生量が多く、大きな被害を与えているのは、アケビコノハ、アカエグリバ及びヒメエグリバの三種です。蛇足ですが、カタカナで「ヤガ」と書くと、「ヤガ科」の蛾類（今回説明する「夜蛾」の他、ハスモンヨトウ、オオタバコなど一、〇〇〇種以上のガが含まれる）を指します。

夜蛾類の成虫は、果樹園周辺の林野を生息場所とし、夕方から活動を開始して果樹園へ侵入・加害し、明るくなるまでに山野に帰っていきま

減、一〇℃以下では飛来しなくなり
ます。
夜蛾類の幼虫の食草を第一表に示
します。アケビ、ムベは“つる性植
物”で、林やその周辺に生え、果実
が食べられるので御存知の方が多
いと思います。また、最も重要なカ
ミエビ（和名：アオツツラフジ）は御
存知の方は少ないようですが、林や
その周辺に普通に生えている“つる
性植物”です。夜蛾の被害で悩んで
いる方は、是非、果樹園周辺を探し
てみてください。きっと、これらの
食草、特にカミエビが周辺に多いこ
とに驚かれると思います。

収穫直前の熟した果実を好み、ナシでは七月下旬頃から、カンキツでは九月上旬頃から園内へ飛来して加害します。口吻のところが先端を果実刺し込んで中の果汁を吸汁します。果実は、刺し傷から雑菌が侵入して腐敗します。カンキツでは一晩に一頭の成虫が一〜二果実を加害するとされています。

夜温が高いほど活動が活発となり、果樹園への飛来数が多くなります。逆に、夜温が低くなるほど活動がしなくなり果樹園への飛来数が少なくなり、一〜二〜三℃以下になると激

成虫の発生時期を第二表に示すとおり、アケビコノハは成虫越冬して年三回、アカエグリバ及びヒメエグリバは幼虫越冬し、年四回世代を繰

第1表 夜蛾類幼虫の食草

夜蛾の種類	幼虫の食草
アケビコノハ	カミエビ、アケビ、ムベ
アカエグリバ	カミエビ
ヒメエグリバ	カミエビ

第2表 夜蛾類成虫の出現時期

夜蛾の種類	成虫の出現時期
アケビコノハ	前年9月下旬～4月上旬(越冬成虫)、4月下旬～6月、7月上旬～9月、9月下旬～翌年4月上旬
アカエグリバ	5月中旬～6月中旬、6月下旬～7月、7月中旬～8月中旬、8月下旬～10月上旬、10月中旬～12月
ヒメエグリバ	5月上旬～6月中旬、7月上旬～8月上旬、8月中旬～9月中旬、9月下旬～11月

り返します。
 ほぼ一年中成虫が見られますが、特に、八月中旬以降成虫の密度が高くなりますので、収穫時期の遅い品種ほど被害が激しくなります。成虫の果樹園への飛来は、日没後

から明け方まで続きますが、特に日没一時間後～二四時頃までに飛来する個体が多いとされています。

被害が発生しやすい園

まず、夜蛾類幼虫の食草が多い林野に接した園で被害が多くなります。また、同じ園でもより林野に近い木での被害が大きくなります。山間部等にぼつんと孤立している園も、集中加害を受けることとなります。品種的には、熟期の遅い晩性種での被害が多くなります。



写真1 夜蛾に吸汁された豊水吸汁痕がわかる

何故被害がふえているのか？

まず、放任園等が増加し、夜蛾類の幼虫の増殖場所が増加したことが考えられます。次に、近年九月～一〇月の気温が平年より高くなっており、夜蛾類の活動が秋の遅い時期まで活発になっていくことが挙げられます。また、せつかく設置した忌避灯を棚下だけ点灯させて、棚上を点灯していない園では、光が届かない上部から成虫が侵入して被害を受けることとなります。



写真2 アカエグリバの成虫

防除対策

夜蛾類は、園外で増殖して、成虫が夜間だけ園内に侵入して加害するため、「園内に侵入させない」ことが被害防止対策となります。

耕種的防除

可能な限り、園周辺の夜蛾類幼虫の食草（カミエビ、アケビ、ムベ等）を除去して、発生源を減らします。



写真3 ガミエビの葉



写真4 アセビの葉



写真5 ムベの葉

物理的防除
①忌避灯による被害回避

現在、最も効果的な被害防止対策です。地域ぐるみで波長五八〇〜六〇〇nmの黄色蛍光灯で果樹園を照らすと、被害をかなり減らすことができます。これは、夜蛾類は夜行性であるため、一定以上の明るさがあると活動を停止する性質を利用したものです。なお、果実の着果部分で一ルクス以上の明るさが必要なので、四〇ワットの蛍光灯で棚下四〜五灯、棚上二〜三灯の合計六〜八灯が必要です。被害の多い園では、棚上の蛍

光灯が点灯していないことがあるので注意してください。また、日没直後から日の出まで夜通し、収穫終了時まで点灯します。

②防蛾ネットによる園内への侵入防止
被害を毎年うける園では、網目六mmの防蛾ネットで園周囲を被覆すると、横側から園内への侵入を防ぐことができます。

品質の向上に/
日曹の農薬

梨、桃、柿、ぶどう、梅、
キウイフルーツ、いちじく、
びわ、すもも、あんず、かんきつ
の害虫防除に

- 広い範囲の害虫に有効
- 収穫間近まで使用できる
- 汚れや果粉の溶脱が少ない

日曹 **スカウト**® フロアブル



日本曹達株式会社

福岡営業所 〒810-0001 福岡市中央区天神2-14-13
TEL. (092) 771-1336